



能登
里山里海
SDGs
マイスター
プログラム

News Letter

金沢大学 能登学舎 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム ニュースレター 2023年4月20日発行 第2号

金沢大学 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム 2022 年度を振り返る



2022年6月4日に開講した金沢大学能登里山里海 SDGs マイスタープログラム 2022年度は、2023年3月11日に修了式を行い、約10ヶ月間に渡った全17回の講義・実習、卒業課題研究のプログラムを終えました。受講生は最年少は大学1年生の19歳から最年長は49歳まで、金沢市や輪島市、珠洲市、能登町、七尾市のほか、県外は京都府から通われた方もいました。今回は2022年度のプログラムの特徴を振り返り、今後の展望についてご紹介したいと思います。



大学生の参加

2022年度のマイスタープログラムの特徴は、14名の修了生のうち5名の学生がいたことです。また、初めて金沢大学の学生向けに「能登・地域活性化演習Ⅰ・Ⅱ」という講義を開講し、20名の学生がマイスター受講生とともに学ぶ

機会を創出しました。人生100年時代と言われる昨今において、社会人を対象とした学び直しの機会としてのリカレント教育が叫ばれていますが、社会人と大学生と一緒に課題に取り組む形は全国でも数少ないプログラムです。実際の講義を通じて、それぞれが大きな刺激を受けた感想を多数いただいた結果、次年度以降も継続して実施することになりました。(篠田隆行)

ふたつのコース

2022年度から本科コースに「実践探求型」と「知識習得型」のふたつの受講方法を設けました。どちらも一緒に講義を受けますが、これまでのプログラムと同様、受講者が自身の課題に沿ってテーマを設定し卒業課題研究に取り組む「実践探求型」と、知識の習得に重点を置き、一年を通して学んだことを卒業レポートとして報告する「知識習得型」。これまでよりも多彩



でより幅広い関心を持つ方に受講してもらえ、プログラムの間口が広がったように思います。(岸岡智也)

地域との連携

2022年度は、地域との関わりを重視したプログラムを多数実施しました。例年のように奥能登地域における生業の実践者を訪ねたバス研修のほか、9月には奥能登各市町の行政の方にもお力をお借りし、地域課題にアイデアを提案する企画も行いました。また、通常の講義・実習でも、地域で活躍する方々を講師としてお招きし、活動についてお話しいただく機会を多く設けました。地域あつての能登学舎です。今後も地域のみなさまと連携して活動を行っていききたいと思います。(小林秀輝)

能登の里山里海を知る

2022年度はコロナ感染症流行の影響があり、予定していた講義実習が直前にすべて中止になることもありましたが、そのような中でも可能な限り、沿岸、里山、田んぼと異なる自然環境での生き物観察や、その保全に携わる方々のお話を直接聞く講義を実施しました。能登について、自分で見て聞いて知ることができる機会を今後も増やしていきたいです。(木下靖子)

マイスター修了生の活動紹介 -Report of Noto SATOYAMA SATOUMI Mesiter

2023年4月現在、マイスタープログラムを修了した「能登のマイスター」は、のべ200名を超えました。本ニュースレターでは、県内・県外で活躍するマイスターのみなさんの活動、挑戦をご紹介します。

■松本 恵さん (里山里海マイスター5期生 2017年度)

松本恵さんは、珠洲市内で兼業農家として稲作を営んでいらっしゃるマイスター修了生です(里山里海マイスター5期生)。松本農園での稲作は、現在では希少となった昔ながらの作業を残しつつも、ドローン等の最新機器を取り入れたハイブリット形式をとっています。もともと食に携わる仕事をしていた松本さんは、ご結婚を機に珠洲市に移り、ご主人が継承されてきた田んぼで稲作を一緒に行うようになりました。いわゆる湿田で、足がとられる上に鍬等を使った重労働。それでも夏の暑い日も黙々と作業を続けていらっしゃいます。



—実際に稲作に携わってみていかがでしたか。「最初はお米作りにはたくさんの作業工程があることに驚いたと同時に、コメ農家さんへの感謝の気持ちが湧き上がってきました。」

—マイスタープログラムを受講したきっかけと感想を聞かせてください。

「志を共有できる仲間が欲しかったというのが受講の動機です。2017年に金沢大学のマイスタープログラムを受講したことで、同期をはじめマイスター関係者とのご縁をいただきましたし、また自分たちが行っている稲作が里山の保全につながっているということに気付き、誇りを持てるようになり、モチベーションも上がるようになりました。自分たちの稲作を次世代にも伝えていきたいと強く思うようになりました。」

ご結婚後、初めて松本家の作るお米を食べた際、「その美味しさに驚いた」という松本さん。今や松本農園のお米を食べた方からじわじわと口コミでその美味しさが伝わり、販売分は毎年売り切れている状況です。

松本さんは、珠洲のお米、さらにお米を食べる文化の魅力を伝えるべく、最近は米粉を使った料理の勉強を始めたとのこと。そしてなんと今年3月に松本さん発案の米粉レシピが、クックパッド株式会社と株式会社波里が監修したレシピ本に掲載されました(※)。

今後の松本農園の取り組みに注目です。

(小林秀輝)

※クックパッド株式会社・波里監修『米粉で作るほうがおいしい料理』宝島社、2023年



■浦達也さん (里山里海 SDGs マイスター 2020年度)



ドローンを活用した能登の魅力発信と地域解決への挑戦

珠洲市で自動車用部品の製造会社を営んでいる浦達也さんは、株式会社 Drone Partner's を立ち上げ、ドローンによる空撮、農薬散布や測量を請け負ったり、講習などを行っています。

浦さんは子供のころから機械いじりが好きだったそうです。2015年に友人が持っていたドローンを見て「面白い!」と感じると同時に「これは仕事にできるのではないかと直感したそうです。その後、ドローンを里山里海の課題解決に役立てるためのヒントを得るため2020年に能登里山里海 SDGs マイスタープログラムを受講し、卒業課題研究の中で獣害対策のために赤外線カメラで上空からイノシシの撮影などに取り組みました。

珠洲市や能登のすばらしい景観をドローンで撮影し SNS などで発信する活動にも力を入れ



浦さんがドローンで撮影した珠洲市三崎町小泊。能登学舎が見える。

ています。また 2021 年の奥能登国際芸術祭の開催期間にあわせて浦さんは空撮映像のコンテストを開催しました。北海道から沖縄まで全国からエントリーがあったそうです。

浦さんは水中ドローンも購入するなど最新技術の導入も進めていて、ドローンという新たなテクノロジーを有効活用した能登の魅力発信や地域課題解決に向けてチャレンジしています。

(岸岡智也)

■ 辻口 洋史 さん (里山里海マイスター 5 期生 2017 年度修了、2021 年度専科修了)

ローカル・クラフトの挑戦

—地域の自然が見える木材、歴史が見える古材のおもしろさを伝える

辻口洋史さんは、珠洲市にて木材加工の工房「Suzu wood working studio (スズ・ウッドワーキング・スタジオ)」を開業し、家具制作を行う職人です。主に能登の山林の木を使用した家具づくりに取り組んでいます。

津幡町出身の辻口さんがマイスタープログラムを受講したのは、珠洲市に移住して半年ほどたったときでした。きっかけは、先に地域おこし協力隊として移住していた知人から「地域のことを知るのに良い機会になるのでは」と紹介してもらったことでした。

受講を申し込み、実際に講義が始まると、当時従事していた森林組合の仕事と講義日が重なることが多く、思ったように参加することができませんでした。自分の工房づくり(納屋の



改装)、地元の木材の活用、家具のデザインなどをテーマに卒業研究に取り組み、発表することができました。その後、辻口さんは家具職人として個人事業を起業、マイスタープログラムの専科、能登 SDGs 新事業プロジェクト研究(事業構想大学院大学主催)の受講を経て、家具の受注制作やインテリアデザインの仕事のほか、山林の保全や地元の木材の加工流通に取り組む仲間も増え、活動が広がっています。

マイスタープログラムを受けて最も印象に残った経験のひとつは、人前で行うプレゼンテーションをする機会が多かったことだそうです。発表を繰り返す中で、単にプレゼンテーションの技術が向上したというだけでなく、「上



現在、改装中の新しい工房。アーチ型の屋根を持つ広々とした倉庫。

手だな」と思う他の受講生たちの発表を聞くことが刺激となり、自分と比較する内に、自分のアイデアの長所、獨創性についても意識できるようになったことが大きな変化だったといいます。



現在、辻口さんはかつて養蚕をしていた倉庫を借り、自分の手で少しずつ改装し新しい工房をつくっています。家具制作の作業場だけではなく、各地から採取した木材や、解体される古民家などから運んできた古材をストックするスペース、家具の展示場、ワークショップができるスペースなどを併設する予定です。改装中の倉庫には、ブナやナラなど名前と地名が書かれ

た木材、地元の酒造会社からもらったという木製の酒樽用の大きな蓋、和筆筒などがすでに置いてありました。

辻口さんが工房のテーマとして掲げているのはローカルクラフト。地域の環境と歴史から生まれた個性的な木材や古道具、そういったモノが持つ来歴を、日々の暮らしで使われる家具に表し、作り手と使い手の間で共有できることがこれからの家具の新しい価値、おもしろさになるのではないかと考えています。

(木下靖子)



ニュース -News information

▶ 14名の能登里山里海SDGsマイスターが誕生しました

2023年3月11日(土)、能登里山里海SDGsマイスタープログラム修了式を執り行い、あらたに14人が修了しました。2007年にスタートしたマイスタープログラムの修了生はのべ232人になりました。彼らは農林水産業を始め、医療や福祉、教育、観光、地域おこし、ITベンチャーなど実にさまざま分野で、能登を中心に全国各地で「能登里山里海マイスター」としてそれぞれの強みを活かした活動を行っています。



▶ 「能登の里山里海生物多様性セミナー」で話題提供

2023年3月4日(土)、石川県立図書館にて開催された「里山里海ワークショップデー in 百万石ビブリオバウム」(主催：いしかわ里山づくり推進協議会、石川県)内のイベント「能登の里山里海生物多様性セミナー」にて、スタッフの岸岡智也が能登の野鳥についてお話をしました。当日は68名の方が参加され、能登の生き物に関するクイズなどで盛り上がりました。



▶ 留学生が能登の世界農業遺産を視察

2023年3月14日(火)、「いしかわ世界農業遺産国際貢献プログラム」によるスタディツアーの訪問先のひとつとして、県内の大学や国連大学の留学生12名が能登学舎を視察訪問しました。能登学舎スタッフから能登里山里海SDGsマイスタープログラムによる能登での人材育成について紹介したあと、里山里海食堂「へんざいもん」で能登の食材をふんだんに使用した昼食を楽しんでいました。



▶ 能登里山里海SDGsマイスタープログラム2023年度受講生募集はじまりました！



能登を中心とした地方創生や地域活性化に向けた活動を実践できる知識・能力を有する人材の育成を目指します。地域の課題解決に正面から取り組み、自然環境や伝統文化と調和した能登ならではの持続可能な地域社会の創造に貢献しようとする、チャレンジ精神にあふれる方々の受講を歓迎いたします。

■本科コース(実践探求型)

募集定員：8名程度 受講料：50,000円/1年間

■本科コース(知識習得型)

募集定員：12名程度 受講料：30,000円/1年間

■応募締切

2023年5月23日(火)17:00【必着】

■問い合わせ

金沢大学能登学舎(石川県珠洲市三崎町小泊33-7)

能登里山里海SDGsマイスタープログラム受講生募集係(担当:岸岡)
電話：0768-88-2568

E-mail：t.kish@staff.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学能登学舎 能登里山里海SDGsマイスタープログラムニュースレター 第2号

発行：金沢大学能登学舎 能登里山里海SDGsマイスタープログラム事務局
編集：金沢大学能登学舎 能登里山里海SDGsマイスタープログラム事務局
ニュースレター担当・デザイン：木下靖子

〒927-4162 石川県珠洲市三崎町小泊33-7 金沢大学能登学舎
電話：0768-88-2568
Webサイト：<https://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/meister/>
2023年4月20日 発行

